

前期スケジュール6～9月

※各講座の詳細・最新情報についてはホームページをチェック! <http://akibi-plus.jp>

☆ … 受講生対象講座

★ … 公開講座 (どなたでもご参加いただけます)

BASE 1 秋田

- ① アキビプラストーク《全4回》
- ② 秋田芸術新聞編集部員ゼミナール《全8回》

①では、初年度にローカルメディアと協働して行われた事業をまとめたアートマネジメントのテキストブック『辺境芸術最前線』を用いて、広く市民に向けた辺境芸術マネジメント講座を開催。②では、出来事の感想や印象を表現できるだけでなく、客観的な視点から情報を文章にまとめる「報道記事」の作成技術を身に着けます。物事の本質を捕えようとする取材から執筆まで一連の作業を通じて、伝達情報力を高めることができるようになるだけでなく、さまざまな事業において内容に過不足を起こさない「企画力」を高めることができます。併せて、主にインターネットにおける情報発信と情報流通の差異などについて解説します。

【担当教員】岩井 成昭 【企画運営】蛭間 友里恵(秋田公立美術大学大学院)
【講師】千葉 尚志(秋田経済新聞編集長／(株)イースナーデザイン代表取締役)

★ 6/16(金)

①アキビプラストーク「オープニングイベント」
第1部：辺境芸術編集会議キックオフ! 第2部：辺境についてあなたの知っている2,3の事柄
【形式】公開シンポジウム 【講師】岩井 成昭(秋田公立美術大学教授)／千葉 尚志(秋田経済新聞編集長／(株)イースナーデザイン代表取締役)／芸術価値創造拠点・地域アドバイザー(秋田／男鹿／五城目／横手) 【場所】秋田公立美術大学大学院棟1F
【定員】50名 【時間】18:00～20:30

★ 7/13(木)

①アキビプラストーク「辺境の編集学～中央にないネタ探しの旅」
【形式】公開シンポジウム 【講師】宮脇 淳(品川経済新聞編集長／有限会社ノオト代表取締役)
【場所】コラボラトリー 【定員】40名 【時間】19:00～21:00

☆ 6月下旬
スタート!

②秋田芸術新聞編集部員ゼミナール《全8回》
【形式】講座 【講師】千葉 尚志(秋田経済新聞編集長／(株)イースナーデザイン代表取締役) 【場所】(株)イースナーデザイン(秋田市中通5-5-9 マックガレージ2F) 【内容】1. 概論 2. プレスリリースの作成 3. 記事作成の基本 4. 「7/13」公開講座への参加 5. リリースを基に記事作成 6. 写真撮影の基本と実績 7. 取材の仕方と実践 8. 「7」の記事を基に相互評価

★ 晩秋開講

①アキビプラストーク「子育て&アートマネジメント」

★ 2018年2月開講

①アキビプラストーク「クロージングイベント／4拠点報告会」
【募集受講生(②のみ)】7名 【受講条件(②のみ)】高校生以上、高校生以上、経験者問わず、PCを持っている方。(必須) その他、仕事の幅を広げたい方、芸術に関連する仕事に関わりたい方、地域課題・情報発信に興味のある方など。

BASE 2 男鹿

ショートレジデンスプログラム「神々と生きる島を探る in 男鹿」準備講座&実践講座《全4回》

平成28年度に開催した「ショートレジデンスプログラム準備講座」をもとに、フィールドワークや滞在体験のプログラム整備を継続。「準備講座」そして年度の後期には、芸術家の川村亘平齋氏(ガムラン奏者/影絵師/イラストレーター)を招聘して、滞在制作を行います。「実践講座」準備と実践、この二つの講座を通して新たな価値を見出すとともに、イマとムカシをつなぐツールとして、その土地の伝承を使った影絵の物語をつくるなど、コレカラの「新たな芸能のカタチ」を考え、発信します。

【担当教員】山内 貴博 / 井上 豪 / 荻原 千尋 / 土方 大
【地域アドバイザー・企画運営】猿田 真(里山のカフェににぎ主宰) 【協力】大谷 心(男鹿市地域おこし協力隊)

☆ 7/22(土)
7/23(日)

「『海から来るもの・迎える者』信仰と伝説～生活と民俗を探る」
【形式】フィールドワーク 【講師】夏井 興一(男鹿の自然と文化の会 会長)／永井 登志樹(菅江真澄研究会 理事)／土井 敏秀(加茂青砂地域在住)／松橋 和久(パソコン教室ら・く・か 代表) 【場所】(1日目) 鶴ノ崎海岸～能登山の檜～五社堂など (2日目) 加茂青砂～目潟群(火山湖)～八望台など 【時間】(1日目)〈昼の部〉9:30～16:00／〈夜の部〉18:00～20:00、(2日目)9:15～16:00

☆ 10月開講

フィールドワーク

☆ 11月開講

オガるミーティング

★ 2018年1月開講

ショートレジデンス(川村亘平齋の影絵滞在制作・公演)

【募集受講生】10名 【受講条件】高校生以上、全講座を受講する見込みのある方

BASE 3

五城目

今と昔を繋ぐアート《全5回》

五城目で500年続く朝市では、小商いをを行う若い人たちが出店できる日として、「朝市 plus」をはじめています。昔ながらの出店方法でありながら、今の時代らしい商品が並ぶ「朝市 plus」。昔ながらのものに、新しい解釈を加えて今に繋げていくアプローチを通して、地域にある暮らしを掘り起こしていきます。考現学と考古学をアートで繋ぐ。本企画では、五城目の暮らしや歴史にまつわる人、もの、ことを題材に、考現学と考古学の視点をアートに活用したプログラムを展開していきます。

【担当教員】秋田公立美術大学アーツ&ルーツ専攻教員 【地域アドバイザー・企画運営】柳澤 龍(シェアビレッジ御庭番)
【地域アドバイザー】小熊 隆博(合同会社みちひらき代表) 【協力】yukariRo(編集ユニット)

☆ 9/30(土)

「畠山鶴松の落書き」

【形式】フィールドワーク 【講師】小松 和彦(小松クラフトスペース代表)／服部 浩之(秋田公立美術大学准教授)／石倉 敏明(秋田公立美術大学准教授) 【場所】ものかたり ほか 【定員】10名 【時間】9:00～15:00

☆ 10/14(土)

フィールドワーク「これからのなべっこ遠足」

☆ 10/22(日)

フィールドワーク「朝市で考える考現学」

☆ 10/28(土)

フィールドワーク「木食で木育」

☆ 11/11(土)

フィールドワーク「五城目を博物館に見立てるなら」

【募集受講生】10名 【受講条件】高校生以上、全講座を受講する見込みのある方

BASE 4 横手

エリアブリュワー「地域醸造家」の育成《全5回》

発酵のまち横手が舞台。いま注目されている発酵は、大豆や米などが菌と触れ合い、酒や味噌などへと変容する現象です。醸造家は元となる食品や菌、温度や湿度、場所などを組み合わせながら、元とは異なるものを作り上げます。そこに着想を得て、地域の様々な資源、因子などを発見し、掛け合わせて新たなものへと変容させる人材を「エリアブリュワー:地域醸造家」と名付けることにしました。講座を通じて「地域醸造家」とは何かと仮説立て、新たな地域づくりの考え方を提唱していきます。

【担当教員】田村 剛 【地域アドバイザー・企画運営】永沢 碧衣(絵画作家)
【地域アドバイザー】阿部 円香(Hostel & Bar CAMOSIBA 主宰) 【講師】平元 美沙緒(まちづくりファシリテーター)

★ 9/23
(土・祝)

シンポジウム「地域醸造家とは何か」

【形式】公開シンポジウム 【講師】森谷 康市(浅舞酒造杜氏)／高橋 基(デリカテッセン紅玉代表)／今野 満寿喜(ラムヤート代表)／谷 亮治(社会学者) 【場所】横手市十文字文化センター 【定員】50名 【時間】9:30～17:00 【内容】1. パネルディスカッション「地域醸造家って何だろう?」 2. 発酵食ランチ ※参加者実費(デリカテッセン紅玉とCAMOSIBAのコラボによる発酵食を中心とした地域産品のランチをいただきます) 3. ワークショップ「地域醸造家」を定義する 4. エクストラ講座(対話+宿泊+フィールドワーク) 9/23(土)夜～24(日) ※自由参加(受講者限定)、宿泊はHostel & Bar CAMOSIBAにて。

☆ 10/8(日)

ワークショップ&フィールドワーク「地域の因子を採取する」

☆ 10/29(日)

ワークショップ「地域の因子の潜在力を見出し、「掛け合わせ、変容させる」

☆ 11/12(日)

制作「変容を実現する」

★ 11/19(日)
～12/10(日)

展示会「“醸”を展示する(仮)」

【募集受講生】20名 ※第1回目の定員50名 【受講条件】高校生以上、全5回の講座を受講する見通しのある方

10月以降も、4つの拠点で魅力的な講座を多数開催します。どうぞお楽しみに!

主催：文化庁 / 公立大学法人 秋田公立美術大学